

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサート概論 1	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート制作コース・イベント企画コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30 時間
単位数	2 単位	授業形態	講義		
教科書/教材	参考書・参考資料等は、授業中に指示します。				
担当教員情報					
担当教員	八幡 一郎	実務経験の有無・職種	有・コンサートプロモーター/コンサートプロデューサー		
学習目的					
音楽ライブ・音楽イベント制作業務について必要不可欠な知識を習得する。音楽業界を中心に多岐に渡る様々な職種について幅広い知識を得ることにより、エンタテインメント産業の全体像を学習する。目紛しく変化が著しい音楽業界において現状の動向を踏まえながら、未来のライブイベントビジネスをリードするイベントプロデューサー、コンサートプロモーターの人材として、知識と能力を身につけることを目的とする。					
到達目標					
ライブイベントにおける企画段階のアイデア構築から演出プランを策定し、実施会場、チケット販売委託業社等の関係各所への手配や調整、マーケティングから紐付けられるプロモーション施策の策定、ライブイベント実施日に向けての様々な準備そして実施当日の運営業務まで、ライブイベント開催における全体的な一連の流れを時間軸に沿ってその行程を理解する。ライブイベント制作実務を学ぶことにより、ライブイベントの自主企画実施開催を目標とする。					
教育方法等					
授業概要	ライブエンタテインメントビジネスを志すことは基本的なエンタテインメント業界の仕組みを踏まえ、幅広くその業界に携わる関係職種や業務を知ることが必須である。基本的なエンタテインメント業界の知識を習得し、音楽業界の核となるプロダクション・レコードメーカー・音楽出版の構造を理解する。さらにライブエンタテインメントビジネスに特化したアーティストマネジメント業務、プロダクション業務、コンサートプロモーター業務、イベンター業務を学ぶ。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。社会の動きや音楽業界の状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考える。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	60%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ライブ企画①	プロダクションの立場からライブ企画を理解する			
2回	ライブ企画②	コンサートプロモーターの立場からライブ企画を理解する			
3回	ライブ企画③	公演概要書の構成内容を理解する			
4回	ライブ企画④	チケット팅施策、イベンターへの業務委託、電子チケット導入について理解する			
5回	ライブ企画⑤	ライブ企画書を作成し、実施概要、開催趣旨、開催内容を理解する			
6回	ライブ宣伝①	広告とパブリシティについて理解する			
7回	ライブ宣伝②	4大メディアとWEBメディアについて理解する			
8回	ライブ宣伝③	プロモーションとマーケティングについて理解する			
9回	ライブ宣伝④	名義主催、後援名義、協賛について理解する			
10回	ライブ宣伝⑤	協賛提案書を作成し、ご提案内容、ご協賛内容について理解する			
11回	ライブ運営①	運営計画の策定手順について理解する			
12回	ライブ運営②	警備計画の策定手順について理解する			
13回	ライブ運営③	緊急時避難誘導計画の策定手順について理解する			
14回	海外アーティストの招聘	在留資格認定書の申請方法から取得、運用方法またツアーマネジメントについて理解する			
15回	米国のエンタテインメント事情	アメリカ国内でのマネジメント・エージェント・ヴェニューの関連性について理解する			

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサート概論 2
科目基礎情報					
開設学科	コンサートイベント科	コース名	コンサートPAコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	平本 敦彦	実務経験の有無・職種	サウンドエンジニア/管理職		
学習目的					
音響という世界に興味を持ち、あるいは音響シーンでプロとして活躍し将来にわたり、ライフスタイルを築き上げるための仕事という行動に、安全、礼儀、娯楽性、効率の4項目を基礎とした自然、電気、動物の性質を考慮しながら良い音を追求することを目的とします。基礎実習ローテーション期間中はすべてのコース対象に音響の基礎を学び、コース選択後は実習と合わせてより詳しく実践的に音響を学んでいきます。					
到達目標					
基礎実習ローテーション期間は希望コースにかかわらず、ライブイベントの中の音響(サウンドエンジニアリング)技術の分野を理解し、コース選択後は基礎音響学をもとに、音のしくみや聴こえ方、音響機器の特性など実習で行っていることと合わせて理解していきます。最先端技術を十分に理解し、技術はあらゆる人々に信頼される言動に表れるよう人格形成を目標とします。					
教育方法等					
授業概要	大切なことは進みすぎず、学生の様子を考慮し人にやさしいエンジニアの育成に注意しながら、電気的アプローチから良い音を考察します。				
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	90%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期復習	人の聴覚と社会人としての振る舞い			
2回	前期復習	アーティストとエンジニアの境目			
3回	電気音響	電気の性質。実験をしながら理解する			
4回	電気音響	コイルと磁石の関係について。ワイヤレスマイク・ワイヤレスモニターについて理解する			
5回	楽器と音楽	楽器の構造と音について理解する			
6回	楽器とは	楽器と楽曲について理解する			
7回	楽器と音響機器	デジタルとアナログについて理解する			
8回	楽器と音響機器	ノイズの世界、音響にとって好まざる音を理解する			
9回	音場調整	音響測定の種類とその手法を理解する			
10回	音響機器	様々な測定方法とその危険性について理解する			
11回	再生装置	スペックと実際の違いについて理解する			
12回	再生装置	大気と音について理解する			
13回	実習準備	良い音とは、ミキシングバランスについて理解する			
14回	実習準備	仕事と時間について理解する			
15回	コストパフォーマンス	安全、パフォーマンス、礼儀、コストについて理解する			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	コンサート概論 2
科目基礎情報				
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート舞台コース	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	2単位	授業形態	講義	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
担当教員情報				
担当教員	板子 光男	実務経験の有無・職種	有・舞台監督	
学習目的				
舞台の基本を学び、礼儀、コミュニケーション能力、多数の人をまとめる能力、美術、舞台の歴史、多岐にわたる舞台の基本を身につける事を目的とする。				
到達目標				
舞台の基礎となる、劇場の機構、舞台用語、稽古から公演に至る道程、基本的な大道具（舞台美術）等、舞台監督になる為の道を学ぶ。実際の舞台現場に出た時、基本的な事柄で困らずに舞台の仕事が(スムーズに)できるための知識をつけることを目標とする。				
教育方法等				
授業概要	毎回のプリント配り、30年間私が舞台で経験した事の現場の出来事を取り入れ、実践してた事を話し、質問等を多く取り入れ、コミュニケーション能力を高めて貰い、実際、舞台人の新人として、現場で働けるよう(基本を)学ぶ。			
注意点	学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	0%		
	レポート	0%		
	成果発表表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	舞台づくりのプロセス	作品決定から公演までの流れ、制作サイドを含めた全体の流れ		
2回	舞台機構の理解	セリ、盆、スライド舞台、開帳場、の理解と機構を使う危険性		
3回	舞台監督と舞台監督助手の関係	それぞれの仕事関係の役割と連携		
4回	舞台監督の仕事	舞台監督の仕事内容		
5回	劇場との打合せ内容	劇場地合わせの資料作り、打ち合わせ型		
6回	禁止行為の届出書類作り方	消防署への禁止行為の届出書類。劇場への届出		
7回	特殊効果の扱い方	スモークマシン、ドライアイス、タバコ、ろうそく、花火等の扱い方と管理の仕方		
8回	大道具、小道具等の扱い方1	大道具の基本的知識、建て込み、床の敷物等の基本知識。小道具の種類、取り扱い方		
9回	大道具の扱い方2。仕掛け物の扱い	綱元、吊り物の基本的なやり方。いろんな道具の知識を学ぶ。仕掛けものの扱い方と注意		
10回	仕込み、舞台稽古のスケジュールの作り方	各スタッフの打ち合わせ、仕込みスケジュールの作り方、舞台稽古の作り方		
11回	搬入、仕込み、バラシの手順	搬入のやり方。仕込みの順番、バラシの手順		
12回	劇場入りしてからの舞台監督と助手の動き方	実際の劇場に入ってから、舞台監督の動き方と、舞台監督助手の動き方		
13回	本番中の舞台監督の仕事と助手の仕事	本番中の舞台監督の仕事の仕方、舞台監督助手の動き方		
14回	安全作業をする為の注意	すべての作業、本番等、安全が最優先であることの確認、安全な作業する為の連携、声掛け等		
15回	全体のまとめ2	何を優先し、安全に作業を行い舞台進行していくか学ぶ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	コンサート概論2	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート照明コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	舞台・テレビジョン照明<基礎編>(日本照明家協会出版)、現場で役立つ舞台関係用語集 ステージ・PA・照明用語事典(リットーミュージック)				
担当教員情報					
担当教員	御器 沙織	実務経験の有無・職種	有・舞台照明		
学習目的					
音楽業界だけでなく、エンターテインメントに必要な照明として、最低限必要な舞台照明の技術・知識を身につけ、社会人として必要なコミュニケーションも指導していく。また、照明では高所に機材を設置する為、作業における安全も理解する。1人で出来る仕事ではない為、協力し助け合い切磋琢磨が必要。より良いコンサートやイベントにするには、重要性を理解し意思疎通ができる事を目的とする。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・安全に対する心構えとして、コミュニケーションの必要性を理解する。 ・各種灯体の効果・特徴を理解し、電気回路の基礎を理解する。 ・調光卓の機能、舞台照明の規格の一つであるDMX512規格概要を理解する。 ・舞台照明は一人で出来る作業ではない為、実習を通じて、他人とのコミュニケーションを身につける。 					
教育方法等					
授業概要	基礎実習ローテーション期間中は、舞台照明とは何であるか、舞台照明の効果、照明設備の名称と役割、照明スタッフの仕事の内容など舞台照明に関する基本的なことを学ぶ。コース選択後は、コンサート照明スタッフとしてより専門的な知識の理解をはじめ、より詳しく照明器具の種類やカラーフィルターの種類、LEDライトやムービングライトについて学んでいく。さらに片柳記念ホールの実習ライブを通じて実践する。				
注意点	授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しない。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨します。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消できるようにする。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	80%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	小テスト	0%			
	レポート	10%	宿題や見学のレポートなどを真剣に取り組んでいるか、提出状況によって評価する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画(1回~15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期試験の問題点と解説	前期試験の問題点を理解する			
2回	照明家に必要な基礎知識 電気①	電圧・電流・交流・直流、電気の安全について(アース)を理解する			
3回	照明家に必要な基礎知識 電気②	電圧降下・許容電流・配電方式を理解する。			
4回	光の方向による表現	光の方向による心理状況・表現を理解する。			
5回	ジャンルによって異なるステージライティング	イベント・コンサート・芝居・ブライダルなどによって灯体の使い方の違いを理解する。			
6回	光の色による表現技法とカラーフィルター	色による心理描写や時間経過の表現の仕方などを理解する。			
7回	照明機材の多様化と表現の技法	ムービングライトやLEDライト、LEDディスプレイなどの照明機材の表現方法を理解する。			
8回	仮設照明①	野外等での仮設での仕込を理解する。			
9回	仮設照明②	野外等での仮設での仕込を理解する。			
10回	デザインの上げとデータ作り	仕込図の書き方、データ表等の作成の仕方を理解する。			
11回	ムービングライト システムの基本	ムービングライトの歴史から構造、機能と配線の仕方を理解する。			
12回	卒業ライブ(2年)赤坂BLITZの見学にあたっての予習	2年生の卒業ライブ、赤坂BLITZの仕込図等の資料で事前に必要な情報や確認すべき点を検証し理解する。			
13回	卒業ライブ(2年)オリンパスホール八王子の見学にあたっての予習	2年生の卒業ライブ、オリンパスホールの仕込図等の資料で事前に必要な情報や確認すべき点を検証し理解する。			
14回	後期(および前期)の復習・確認	後期(および前期)の復習・確認			
15回	まとめ	全体のまとめ			